

タイトルおよび文書の構造

2013年7月11～28個展
本レジメまとめ 2014.04.30 和田聡文

個展タイトル

既に水に落ちた私は、水の底より、落ちていく彼らを見ていた。
私は、笑っているのか、泣いているのか。

同じ意味

ギャラリー床中央のパネル

これからどうすればよいのか、
ほんとうにわかりません。

知人へのメール文／ギャラリー入口序文／フライヤー文章

日本の製造業を取り巻く状況は、実に色々です。

ポロポロの老朽工場の奥で行われる
官民タッグの国外技術流出やら、
そこで自分たちをリストラした企業への復讐を企てる
老人たちやら、
知的障害者施設で行われる大手企業向けモジュールの
超低賃金組み立てやら、
商社の地方支社に困られる
天才老ロボット工学者やら、
口先とフリーハンド手書きの図面のみで
仕様未定のまま設計製作をスタートさせる
テンパった中小の社長たちやら、
大人のおもちゃを設計する
20代女性ロボット技術者やら、
そこに本国から電子デバイス売り込む
米大手メーカーの営業員やら、
無償でプロジェクトに参加すると
ドイツからメールをよこした
30才代のベンチャー野郎やら、
古い時計装置を我らの発明だと嘘をつけと強要する
皮膚病に犯された画像処理技術の准教授と
拳闘に耽る塵芥処理業者。

私は製造業の片隅で機械設計を営むもので、
あんなこんなで20年来の職場を失いました。
今、私の居る、製造業の水底から眺める日本のありさまは、
実にきな臭く、生臭く、奇妙で、一所懸命です。

作品C1の
墜落する鳥

作品AB、
作品CD
または
作品B1、B2

作品CD

私が職を
失った原因

同じ意味

広報用文章（うろさいギャラリー、fukuoka contemporary art BBS等）

失われた20年を機械設計の現場に生きて、
リーマンショックでトドメを刺された
昭和40年製の**オッサン**が、
人生焼け糞で美術業界に突入！！
ハロワ通いの道すがら、
拾い集めた蟬の抜け殻バケツ一杯と、
貝殻バケツ一杯とで、
イケナイ臓器を勃ち上げます！！
今回は涙で一杯の8点の立体と、
99枚の思い出写真、
落書き数点を奉納。
惨めさ99%のポエムと
愚痴の神殿が、
貴方をじっとり包囲します。

ギャラリーオーナー
佐藤恵一さんによる、
若い作家さんへの
私の紹介＝「変なおっさん」

作品B1、B2

性器の形状を多用

作品F1 (99枚の組写真)

作品E1

惨めさ99%＝スティグリッツ「世界の99%を貧困にする経済」
ポエム＝長すぎるタイトル、冊子付き

作品E1 / 壁E 冊子

日々の歩行、日々の線
重力と反力、地平と足、
ゼロモーメントポイントと安定余裕
手と目、紙と筆、軌跡と視覚

本展時主題からは独立したテーマ。
落書きと言う行為と散歩の類似について。
一部に、今回展示作品の構想図を含む。

「芸術について」
愚痴の空回り

3枚組写真
いつも隣の音を
聞いている。

「私はプロじゃない。」
「素人だから愚痴を言う
ために作品を作る。」

美術を「趣味」
にしていた
若い頃の自分

関連テーマの4面配置により
見るものを愚痴で取り囲む。

会期中投稿の広報文
スラップスティック
(ドタバタ劇)

薄い赤と青 濃い赤と青 淡く様々な色

壁A 冊子
みんな死んじゃえ。

作品AB
すみっこで
死んでいるよ。

壁B 冊子
浮いたり沈んだり

壁C 冊子
今昔

作品CD
すみっこで
生きているよ。

壁D 冊子
もしも愛があるならば

壁D出口 冊子
肺と肋骨と大胸筋ごと
切り取られた祖母の右の乳房と
残りの肺より何々と吐き出される
彼女の笑い声と
風呂場にて大声で吟じられる
彼女の詩について。

作品A1
栄光に至る王の道はただ一つであり、
道をたどれるのは彼ただ一人である。

作品A2
中央の金色は失われたが、
我らは再びここに集う
我らの血と彼らの肉を塗り込めて、
我らの気をもて社を築く

作品A3
種子を胎む。
土は無い。

作品B1
私たちは上昇する。
まぐわいたいから。

作品B2
殻を重ねて私を隠す。
その肉は既に硬さを失う。

作品B3
Mind driven
benefit generator
(Prototype 1949)

作品C1
既に水に落ちた私は、
水の底より、
落ちていく彼らを見ていた。
私は、笑っているのか、
泣いているのか。

作品D1
わたしがあなたを食べるのならば、
あなたはわたしを食べて良い。
あなたがわたしを食べるのならば、
わたしはあなたを食べて良い。

作品D2
わたし達があなた達を食べるのならば、
あなた達はわたし達を食べて良い。
あなた達がわたし達を食べるのならば、
わたし達はあなた達を食べて良い。

作品D3
肺と肋骨と大胸筋ごと
切り取られた祖母の右の乳房と
残りの肺より何々と吐き出される
彼女の笑い声と
風呂場にて大声で吟じられる
彼女の詩について。

ご破算願望

教祖と取り巻きが
補完し合う。

経済的津波の
到来後の荒地

強気と弱気が
燃料になる。

勤めていた
大手企業と
職を失った
今の私

けれども脆弱
私には無理。

共生は私の世代
としては無理。
けど、私は思い出す。

肺と肋骨と大胸筋ごと
切り取られた祖母の右の乳房と
残りの肺より何々と吐き出される
彼女の笑い声と
風呂場にて大声で吟じられる
彼女の詩について。

両性具有
生産者かつ消費者
ともに与え、ともに育む。

赤く上に在る者が
墜落し、
青く下に在る者が
伸び上がる。
A、B面とは方向が
反転し、向き合う。

元は船に乗った鳥だった。
昔は手足があった。
今は口だけの蛆虫である私。

社という船から
落ちる赤い者ども
見上げる青い者。
私自身を含む景色。

C1の一部立体の
隠れタイトル

口ばかりでなく、
手を使ってものを食べたい。

元は船に乗った鳥だった。
昔は手足があった。
今は口だけの蛆虫である私。

共生の夢。
シェアハウス／ロングハウス／江戸期の長屋の
情報化社会における贈与交換経済。
壁Bに対面する壁Dに展示され、
壁Bの問い「タロイモはどこ？」への回答。

ほんの2世代前の「百姓」。
祖父母の「生き方」という希望

スティーブ・ジョブズ＝弘法大師
＝カリスマ＝ハードマナー、男根の形

米経済学者
スティグリッツの著作
「世界の99%を
貧困にする経済」

作品F1 写真の写真 幾ばくの嘘 (99枚の組写真)

風が吹き、目を覚ますと別の場所

あなたは要らない人間です。

うしろめたさと後ろ髪

うろろう道の行ったり来たり。

こんなところにいるはずがない。

すみっこで生きていくよ。

ふたなりの生殖器

犬が怖くてそちらに行けない。僅かにのけぞる。

交接の始まり

口を濁す。目を伏せる。

怠惰が身に付く

自分の状況と気分の経緯＝本展示テーマの背景状況のスナップ＝序文と同じ役割